

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2019.1. VOL.38

contents

極 教育&研究  
Education and current topics in research

人 時の人  
People in the news

和 お知らせ  
Information

## 医学研究科&医学部同窓会共催にて 医学部創立75周年記念式典および記念講演会を開催

平成30年10月27日(土)午後4時40分から、名古屋観光ホテルに於いて、医学部創立75周年記念式典および記念講演会を開催いたしました。また医学部創立75周年記念懇親会には約250名の関係者が集い、医学部の75年の歴史と伝統、未来を祝いながら交流を深めました。特筆すべきことは、大学の開学70周年記念事業の一環と位置づけ、医学研究科と医学部同窓会が共同開催し、名市大医学部の動向と未来の夢を確認しながら、盛大に実施できたことです。

名古屋市長代理の堀場副市長をはじめ、豊川市長、蒲郡市長、愛知県医師会副会長、三重厚生連理事長、郡理事長、副理事長、各同窓会会長、各研究科長など、多くのご来賓および関係の皆様には大変お忙しい中ご参加を頂き、改めて心より感謝申し上げます。

記念式典では、堀場副市長より、“少子高齢化の進展や災害面の課題にどう対応していくのか”という名古屋市の喫緊の課題に対し、優秀な医師の育成と高度医療の提供に加え、認知症・発達障害など社会的関心の高い分野での先進的研究の推進、地域包括ケアシステム構築への協力、救急・災害医療体制のさらなる充実・強化など、今後とも多方面にわたって、医学・医療の発展に多大な貢献を期待している、とのご祝辞をいただきました。

記念講演会では、郡理事長より「100周年を見据えた、名市大の改革」というタイトルで、25年後の100周年に向け、今後25年の社会を読み解き、変化に対応しながら「名市大未来プラン」で飛躍し、公立大学の4人の母(名古屋市、文科省、厚労省、総務省)の援助のもと、7学部が協調して必ずトップランナーになる、という名市大の現状と未来ビジョンをご講演頂きました。

また講演会の前には、「名古屋市立大学医学創立75周年の歩み～昭和から平成、そして未来へ～」に関し、過去の建築物の写真で医学部の歴史を振り返りながら、また現在の名市大病院の外観をドローン映像(医学研究科HP「総合案内」より視聴可)で紹介、映像に流れる壮観たる病院を見て多くの参加者が感動を覚え、自然と大拍手に包まれました。さらに未来にむけた“トンネル計画(同窓会構想)”が披露されました。

文責：飛田 秀樹(脳神経生理学分野教授、副研究科長&同窓会副会長)



堀場名古屋市副市長より祝辞



記念講演会の様子

### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

教 育

## 2018年1月 新しい臨床実習が始まります!

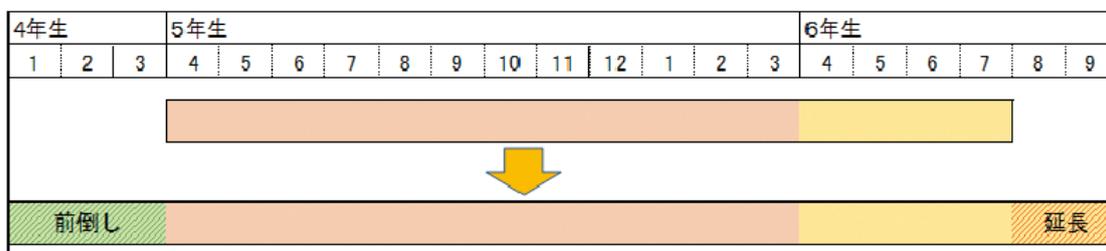
医学部の教育は、国際的な基準を満たすべく、この数年で急速に改革が進みました。2015年12月1日に日本医学教育評価機構(Japan Accreditation Council for Medical Education:JACME)が設立され、医学教育の質を評価する分野別評価制度ができました。本学も来年度に審査を受ける予定であり、さまざまな改革を行ってきました。

臨床実習は、卒業時に医師として求められる事項(アウトカム)を習得するべくカリキュラムを組み立てます。その目標達成のために、72週間の実習時間と参加型臨床実習方式への変更を求められ、大幅な実習内容の変更を行いました。2018年1月よりいよいよ新しい臨床実習が始まります。

大きな変更は、①4年生から開始、72週間の実習、②すべての診療科、中央部門での学習、③参加型臨床実習への移行、④学生の自己学習・自己評価のためにポートフォリオの使用、⑤卒業試験の廃止と実習終了後のObjective Structured Clinical Examination (OSCE、客観的臨床能力試験)、⑥関連病院・連携病院における臨床実習の強化、です。学生にはより能動的に学ぶ姿勢が必要ですし、教員も意識改革や実習方法の改善が強く求められます。

卒業時には、非常に高い臨床能力を身に着けていることが求められています。ですので、学生にはこれまで以上に真剣に臨床実習を行ってほしいと思います。また、教員の負担はさらに大きくはなりませんが、教育の重要性を理解した上で、より良い臨床実習を目指していただきたいです。学生、教員、病院職員が一体となって、より能力の高い医師の育成を行っていきましょう。

文責：BSL小委員会委員長 祖父江 和哉



これまで合計60週の臨床実習期間でしたが、72週となります

## 名古屋市立大学解剖感謝式

解剖感謝式は、年に一度、医学・歯学教育の発展のため自らの身を捧げられた方々の御霊に感謝し、ご冥福をお祈りし、感謝の意を表す会であり、医学部では、重要な催事の一つです。

平成30年度の「名古屋市立大学解剖感謝式」は、10月16日(火)午後2時より、川澄キャンパスの「さくら講堂」において執り行われました。式には、ご遺族の方々、公益財団法人不老会理事長ならびに役員の方々、郡理事長をはじめとする教職員ならびに附属病院の方々、系統解剖実習中の医学部2年生、看護学部学生など、約300名が出席しました。

式では、学生を代表して、医学部2年生の木村友香さんが感謝の言葉を述べ、系統解剖と病理解剖とを合わせて被解剖者162柱のご芳名が奉読されました。そして、参加者全員で献花を行い、最後に道川誠医学部長が御礼の言葉を述べ、厳粛な内に終了いたしました。

当大学では、今後もレベルの高い教育、医療を提供し、医学の発展に寄与する研究に努力する事で、ご献体いただいた方やご遺族の方のご遺志に応えていきたいと思っております。



ご芳名を奉読する木村さん

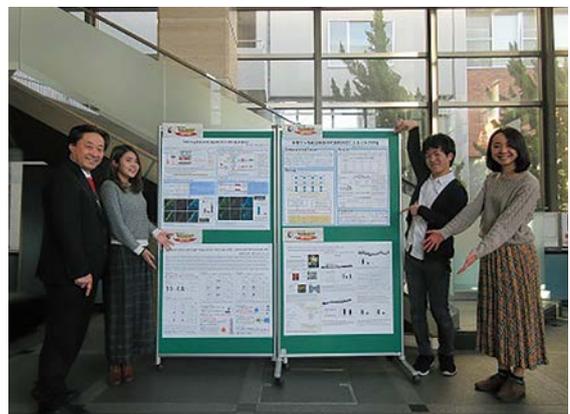
文責：臨床病態病理学 教授 稲垣 宏

## 基礎自主研修から得たもの～名市大から世界へ発信!

名市大医学部では、基礎自主研修を20年以上前から医学教育に導入しています。現在、基礎自主研修は、全国のほぼすべての医学部において正式なカリキュラムとして組み込まれています。今年度も、9月から約3か月間の基礎自主研修が行われました。その成果発表会が11月22日に開催され、4つのセクションから1名ずつの優秀賞が教授を含む審査員によって選ばれました。受賞者のポスターは、研究棟1階ロビーに約1か月間展示され、その健闘が称えられました。写真は受賞者とポスターとなります。おめでとうございます。

近年の医療は飛躍的な進歩を遂げていますが、これはすべて基礎研究を基盤にしているものです。研究なくして医療の発展が望めないことは明白です。実際、近年のわが国のノーベル賞を獲得するような卓越した研究成果は目を見張るものがあります。その一方で、PD-1抗体が臨床応用されるまでに20年以上の月日を要していることを学生諸君は知っていますか？

名市大に入学する学生諸君はとて優秀なはずですが、この研修の中で基礎研究の面白さを体験し、研究に興味を持ち続ける者はMD-PhDコースもよし、研究者になるのもよし、そのまま臨床医になるのもよし、1人でも多くの学生が、臨床研究の両輪であるトランスレーショナルリサーチ(TR=橋渡し研究)とEvidence-Based Medicine(EBM=根拠にもとづく医療)の推進に貢献するPhysician Scientistを目指してほしいと思っております。この基礎自主研修が、将来臨床の場で自ら問題提起し、それを解決することのできる医師、医学者としての第一歩を踏み出す機会となることを期待します。



世話人の田中教授と優秀学生のみなさん

H30年度 基礎自主研修 世話人 田中 靖人(ウイルス学)

## 環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)進捗報告

### ■エコチル調査とは

本学が環境省から委託して実施しているエコチル調査は8年目を迎え、今年で調査の最初に協力して頂いたお子さまも小学校に入学する年齢になりました。エコチル調査は環境中の化学物質が子どもたちの健康に与える影響を長期的に調べる全国規模の調査です。愛知県は本学が拠点となり、名古屋市北区と一宮市にお住まいの約5,500組のご家族にご協力頂きながら実施しています。

### ■こんなことがわかりました

2018年11月に2つの論文が発表されました。1つ目は、杉浦真弓産婦人科教授が執筆された不育症患者の妊娠帰結に関する論文1)です。流産・死産を繰り返す不育症は4.2%と高頻度であり、流産を繰り返したのち健康なお子さんを出産できるかという心配が患者さんにはあります。10万人のデータを分析した結果、流産や死産を繰り返す不育症の方でも、児の先天異常、染色体異常が増加することなく、健康なお子さんを出産できることが世界で初めて明らかになりました。

2つ目の論文は、妊娠中の血中カドミウムおよび鉛濃度と妊娠糖尿病との関連性2)についてです。近年、海外の研究ではカドミウムや鉛のばく露により糖尿病を引き起こす可能性が指摘されていますが、妊娠中の糖代謝異常である妊娠糖尿病については報告がありません。約2万人分の母親の血中カドミウム濃度と鉛濃度について調べた結果、妊娠糖尿病発症と関連性はないことがわかりました。

エコチル調査は、みなさんの生活環境の安全を守り、未来の子ども達が健やかに育つ環境を作るために必要な調査研究です。日頃のご協力に感謝申し上げますと共に、今後も皆様からのご理解とご協力をいただければ幸いです。



- 1) Sugiura-Ogasawara M, Ebara T, et al, Adverse pregnancy and perinatal outcome in patients with recurrent pregnancy loss: Multiple imputation analyses with propensity score adjustment applied to a large-scale birth cohort of the Japan Environment and Children's Study. Am J Reprod Immunol. 2018
- 2) Oguri T, Ebara T et al, Association between maternal blood cadmium and lead concentrations and gestational diabetes mellitus in the Japan Environment and Children's Study, Int Arch Occup Environ Health. 2018

杉浦真弓教授執筆の不育症患者の妊娠帰結に関する論文

文責：エコチル調査愛知ユニットセンター

## 第3回 名古屋市立大学・ハルリム大学国際合同シンポジウムを開催しました

2018年11月28日(水)に韓国ハルリム大学からコン理事長、キムチュンス学長、キムヨンサン教授(前副学長)、コン理事(コン理事長ご子息)にくわえ7名の若手研究者(准教授、助教クラス)が来名され、3日間の日程で国際学術交流がスタートしました。

同日の桜山キャンパスツアーでは研究室・共同機器や附属病院(薬剤部、放射線治療部、小児科病棟など)の見学、翌29日(木)シンポジウム当日には郡学長とコン理事長の開催挨拶に引き続き、本学の医・薬・看護・システム自然研究科から、神経細胞の移動停止の仕組み、肝炎ウイルスの変異と治療抵抗性についての研究など8名、ハルリム大学より腸内細菌叢を利用した肝疾患治療や腫瘍サンプルを用いて次世代シーケンス解析を行った研究など7名の研究者が幅広い成果を発表しました。メインセッションの参加者は133名、活発な討論と情報交換の場になりました。

シンポジウムのテーマは「未来創成(Future Creation)」,つまり両校が国際化という同じ目標にむかって発展する新たな歴史の創成につながるものです。関係者の皆様に深謝いたします。

文責：酒々井眞澄(分子毒性学分野教授、国際交流担当副研究科長)



本学とハルリム大学関係者での記念撮影

○後列左から

Jang先生、大場、田中、杉浦、小田嶋、飯尾、澤田、Suh先生、Suk先生、Kim先生、Lim先生、Youn先生、高橋、Hong先生、築地、飛田、下平

○前列左から

Jung、酒々井、道川研究科長、キムチュンス学長、郡理事長、コン理事長、西野先生(元理事長)、キムヨンサン教授(前副学長)、コン理事(コン理事長ご子息)

## 新任教授のご紹介

### 消化器・代謝内科学分野 — 片岡 洋望 教授

この度2018年11月1日付けで名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学分野 教授を拝命致しました片岡洋望(かたおか ひろみ)と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1989年(平成元年)に名古屋市立大学医学部を卒業し、故 武内俊彦教授率いる当時の第一内科に入局しました。翌年から約4年間、名古屋市立緑市民病院に赴任し、勝見康平内科部長のもと、とても多忙な内科研修医生活を送りました。大学院は分子医学研究所の故 加藤泰治教授、浅井清文助教授、三浦 裕講師にご指導いただき、研究のおもしろさを教えていただきました。その後、約2年間Calgary大学の分子腫瘍学研究室に留学する機会を得、新規癌抑制因子の研究を行いました。帰国後、伊藤 誠教授のご指導のもと、消化管領域を専門に、臨床と研究に従事しました。2005年から2年間は医局長を拝命し、内科診療科再編や内科合同同門会の設立などに携わりいろいろと人生勉強をさせていただきました。2009年より内視鏡部に異動、2015年より内視鏡医療センター長を拝命し、センターのリニューアル等に從事させていただきました。

現在、大学に約50名、関連病院に約200名が在籍し、消化管、胆膵、肝臓、内分泌・糖尿病の4つのグループが切磋琢磨しながら多忙な毎日を送っています。城 卓志前教授には、高度な診療とともに基礎研究の重要性をご指導いただき、現在32個の科研費研究、2個のAMED研究が教室で進行中です。海外留学経験者も14名大学に在籍し、今後も留学を推奨して行きたいと思います。大学病院の使命である高度急性期・先進医療への貢献を目指し、教室員と一丸となって努力してゆく所存です。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



片岡 洋望 教授

### 麻酔科学・集中治療医学分野 — 田中 基 教授

この度、2018年9月1日付で名古屋市立大学大学院医学研究科麻酔科学・集中治療医学分野周産期麻酔部門教授(診療担当)、2018年12月1日付で名古屋市立大学病院無痛分娩センター長を拝命した田中 基(たなか もとし)と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は、1992年に滋賀医科大学を卒業し、一貫して周産期麻酔(小児麻酔・産科麻酔)畑を歩み、国立小児病院(現、国立成育医療研究センター)麻酔集中治療科、兵庫県立こども病院麻酔科、滋賀医科大学集中治療部、埼玉医科大学総合医療センター産科麻酔科にて経験を積んでまいりました。2006年から2010年まではカナダ・トロント大学に於いて産科麻酔および小児麻酔の臨床フェローシップを修了し、臨床診療はもちろん臨床研究やレジデント教育の世界標準を学びました。これらの経験をもとに、国立成育医療研究センターや聖路加国際病院での無痛分娩立ち上げを担当させていただき、両病院ともわが国における無痛分娩の中核施設に成長しました。

2018年12月1日、当院に「無痛分娩センター」が開設されました。このような「無痛分娩」を冠した大学病院の分娩施設は日本初、世界でも例をみません。無痛分娩は、産痛におびえる産婦に福音となる分娩方法ですが、悲しいことに近年は無痛分娩の事故が社会問題化しています。事故の多くは、無痛分娩のトレーニングが不十分な医療従事者による不適切な麻酔管理・分娩管理が原因です。本センターは、麻酔科医には無痛分娩の麻酔を、産科医には無痛分娩の分娩管理を、助産師には無痛分娩の助産管理を、それぞれトレーニングできる東海地区の拠点にしたいと考えています。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



田中 基 教授

新任教授のご紹介

歯科口腔外科学分野— 深野 英夫 教授

この度、2018年4月1日付で高度医療教育研究センター教授(歯科口腔外科)を拝命いたしました。謹んでご挨拶を申し上げます。

私は、1984年に愛知学院大学歯学部を卒業したのち同大学院で口腔外科学を専攻し、第二口腔外科学教室に入局を致しました。大学院修了後は、愛知県がんセンター・第一外科(頭頸部外科)での研修という好機に恵まれ、研修修了から1998年2月までと2005年10月から2016年2月までを合わせた約20年にわたって歯科医学教育に携わっておりました。また、その間には大阪府立病院(現在の大阪急性期総合医療センター)、名古屋市立大学病院(当時は診療科でした)、豊橋市民病院の3施設に在職し口腔がん治療は言うに及ばず外傷・先天性疾患など口腔外科の主幹の診療に携わって参りました。現職の西部医療センターには2016年2月から部長として地域医療への貢献を第一に、特に腫瘍外科や外傷外科の強化を図り、また周術期口腔機能管理という形で他科との連携を推進しております。

高度医療教育研究センターでは、歯科医師として医学部の卒前・卒後教育に携われることに誇りと責任を感じております。また、愛知学院大学との架け橋となり、高次元の医科歯科連携によって教育・臨床・研究を進めることができると思っております。

そのためにも西部医療センター口腔外科の機能を充実することが重要であり、それによって市大病院1800床構想に寄与できると思っております。引き続き、皆様のお力添えをお願いするとともに、ご指導とご鞭撻を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



深野 英夫 教授

若手の期待の星

消化器外科学分野— 小川 了 講師

この度、2018年11月1日付で、消化器外科学分野講師を拝命いたしました。

私は、当科において上部消化管グループに属しており、特に食道癌を中心とした食道疾患に関しての臨床および研究を行なっております。

食道癌の治療は、手術、放射線、抗癌剤治療の組み合わせで行います。当科がその全ての治療を説明、マネジメントすることで、各治療間で無駄な待機時間を省き、安心してスムーズな治療を提供しています。

手術は、従来、右胸の皮膚を肋骨に沿って大きく切り、筋肉を切離し、肋骨も一部切除していましたが、現在は、ほとんどの症例で、胸・お腹に1cm以下の小さなキズを数ヶ所開け、胸腔鏡・腹腔鏡と言われる内視鏡を用いた手術を行なっています。それによって術後の痛みが少なく、体への負担を減らすことができます。傷は小さくなりますが、リンパ節郭清の程度などの手術の根治性が低下することはありません。また、術前から管理栄養士とともに積極的な栄養管理を行うことで、術後の早期社会復帰をサポートしています。通常、手術当日は集中治療室での管理となりますが、術翌日には一般病棟に移り、歩行することができます。術後1週間目より食事が開始となり、2~3週間で退院が可能です。

また、病院においては、Nutrition Support Team(NST)のメンバーとして、週1回の病棟カンファランス等で経口摂取不良な患者に対する栄養学的なサポートを行なっております。

自分の担当している食道癌では、癌のために術前から経口摂取が困難なこともあります。大きな手術であるため、術後に嚥下機能が落ちてしまったり、経口摂取が思ったより進まないこともあります。“食べる”ことや栄養を充足させることは、難しいことではありますが、大変重要なことであると日々の診療でも痛感しています。



小川 了 講師

### 学生生活

#### 名市大 BLS weekを開催しました

8月6日、8日、22日にBLS weekを開催しました。BLS week の開催は今年で6年目となり、名古屋市立大学の学生や教職員を対象にBLS(一次救命処置)、AEDの使用方法や人工呼吸の実践方法を学ぶ講習会を行いました。救急科の松嶋部長がディレクターを務め、救命救急サークルMeLSC(メルシー:名市大ライフサポートクラブ)の学生が各グループのインストラクターとして延べ51名参加しました。

3日間で学生計72名、教職員計30名が合同で受講し、救命に関する知識を深めました。

受講者からのアンケートでは「大変有意義であった」「具体的な方法まで丁寧に指導いただきわかりやすかった」「多くの方がこの講習を受け、BLSの知識が広まってほしいと思う」等のご意見をいただき、大変好評でした。

いざという時に一人でも多くの命を救えるように、今後もBLS weekを毎年開催する予定です。



松嶋部長の講義



救急科 シミュレーターを利用した実習

#### 男子ゴルフ部が西医体で大会二連覇!



8月8日～10日に三重県四日市カンツリー倶楽部で開催された第70回西日本医科学生総合体育大会(西医体)におきまして、本学ゴルフ部は男子の部で昨年に引き続き優勝し、大会2連覇を達成致しました。

昨年夏に創部以来の悲願であった初優勝を遂げた後も、これに慢心すること無く、今大会を最大の目標にして、日々練習に励んで参りました。各々の向上心と弛まぬ努力の結果として、最高のご報告ができたことを部員一同喜ばしく思っております。また、本大会では女子の部でも準優勝を、さらに西日本医歯薬新人戦においても準優勝を果たしており、本学ゴルフ部が一丸となって躍動した1年となりました。卒業された諸先輩方の熱き想いの襷を受け継ぎ、築き上げていただいた伝統を汚さぬ様、更なる高みへ向けて今後も精進していく所存であります。

最後になりましたが、部の顧問である今井優樹先生をはじめとして、活動を支援して下さっている多くの方々に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

文責:医学部4年生 松本 惇平

#### 医学部4年生が第61回日本神経化学学会大会にて発表

昨年度の基礎自主研修で開始した脳傷害部への新生ニューロンの移動に関する研究成果を、9月に神戸国際会議場で開催された第61回日本神経化学学会大会にて「脳梗塞後の傷害部位への神経前駆細胞の移動のための足場形成に関与する新生アストロサイト・血管の役割」という演題でポスター発表をする機会に恵まれました。学会直前に会場付近を大型の台風や大規模火災が襲い(学会のパンフレットは浸水し一日で全て印刷し直したとのこと)、開催こそ心配されましたが無事に発表を終えることが出来、ほっとしています。

学会では様々な立場の方と議論することで研究内容への理解がより深まり、違った角度から物事を考えるきっかけを得ることが出来ました。また、準備から学会での発表・聴講を通して研究成果を分かりやすく世の中に発信する事がいかに大切かを実感しました。学部生ながら全国で活躍する研究者の方々と同じ土俵で発表させて頂いたこの経験を糧とし、良き医師・科学者となるよう今後も日々精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の学会参加に当たり費用を全面的に支援して下さいました大学関係者の皆様、熱心なご指導とサポートを賜りました再生医学分野の先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



文責:医学部4年生 大竹 杏佳

### 第59回川澄祭を開催しました!

第59回川澄祭実行委員長を務めさせて頂きました、医学部4年生の堀江純平と申します。今年は11月2日から4日の3日間に川澄祭を開催させて頂きました。本年度のテーマは、「一彩合祭」です。参加している全員が彩り豊かな自分の色を出して、来てくださる方々1人1人を楽しませられたら、という思いが込められております。そのテーマの思いの通り、とても充実した学園祭を催すことができたことを嬉しく思っております。

今年度の学園祭は多彩な企画を用意し、周知に工夫をした結果、おそらく過去1番に来場者数が多かったと思われます。特に毎年地域の方々の来場者が少なめである土曜日にかかなりの数の来場者を集められたのは成果だと考えております。日曜日はあいにくの雨でしたがそれでも来場者は多く、学生皆で一致団結して対応したことを評価していただいた声を多方面から受け取り嬉しく思います。私たち4年生が関わる機会は減りますが、来年の川澄祭にも活かせるよう後輩たちに伝えていきたいと思っております。

最後になりましたが、開催にあたり医学部同窓会の皆様や桜山キャンパスの教職員の方々に格別のご理解とご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

文責：医学部4年生 堀江 純平



あいにくの雨でしたが、たくさんの方にご来場いただきました



川澄祭実行委員のみなさんお疲れさまでした!

### 秋もオープンキャンパス大盛況!

11月3日、名市大を志す受験生や進路に悩む高校生、熱心な保護者ら237名の参加者を迎えスタート。医学部創立75周年の今年は、桜山キャンパスを眼下に望む真新しいドローン映像(医学研究科HP「総合案内」より視聴可)で幕を開けました。

医師になるために何を学び何が必要か。本学の特長や魅力とともに、入試、カリキュラム、学生生活など様々な面を教員や在学生らが熱心に紹介。医学部生の授業を体感してもらう模擬講義(「肺炎」をテーマに長谷川教授と新實教授が講義)や、今後大きく変わるであろう医学部入試について丁寧に説明する一幕など、貴重な2時間となりました。

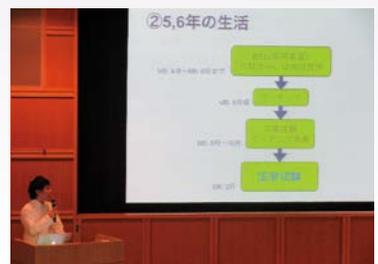
途中、凛々しい白衣姿の先輩からは、「医学部に入ることが目標になっていませんか?医者になる覚悟はありますか?」と何度も厳しい問いかけが。スチューデントドクターとして臨床現場に立つ今だからこその医者の現実を伝えながらも、その言葉の裏には「医者にしかなれないことがあり、そのやりがいはいかげえのないもの」という熱い思いが溢れ、参加者の目の色を変えていました。一方で「医学部生は勉強が大変ですが、部活動やアルバイト、趣味など自分の時間を作ることも十分できます。」とアピール。すべては自分次第であり、高校生のうちから自分にあった勉強法や時間の使い方を探しておくことが大事、と的確なアドバイスも送っていました。

また教員は、「将来海外で医師として働く道はありますか」という質問に、「医師としての力はもちろん、語学力を磨くことが国際社会に出るうえで何より重要」と回答。加えて「本学の強みはそのサポートができること。ぜひ一緒に頑張りましょう!」と力強いエールを送り、締めくくっていました。

ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



会場全体



アドバイスを送る先輩

## ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

- 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
- ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
- 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
- などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は9月号です)

- 一言メッセージ(30字以内)
- 卒業年度
- お名前(ふりがな) \*匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。
- 住所
- 電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 名古屋市立大学 医学・病院管理部 経営課経営係 広報担当宛 E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp

\*お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使いません\*

広報誌：瑞医(ずい)

発行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

TEL (052) 858-7114 FAX (052) 851-4801

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は2019年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

我こそは  
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail:hokouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp  
医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで